



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)中原マンションI新築工事	BEE	0.9	BEEランク	B-	★★

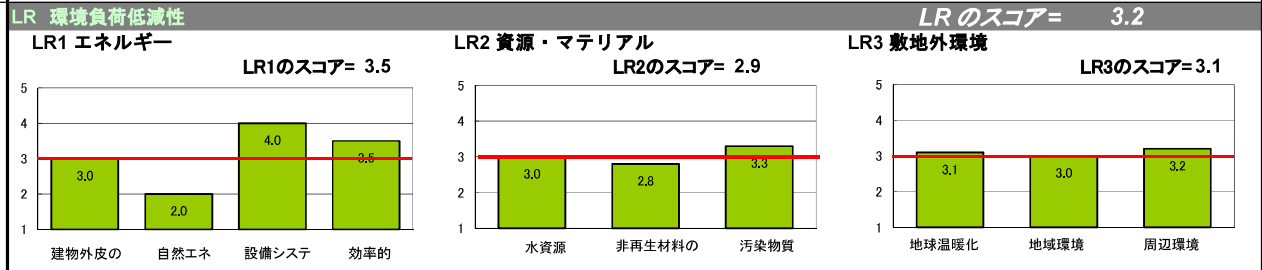
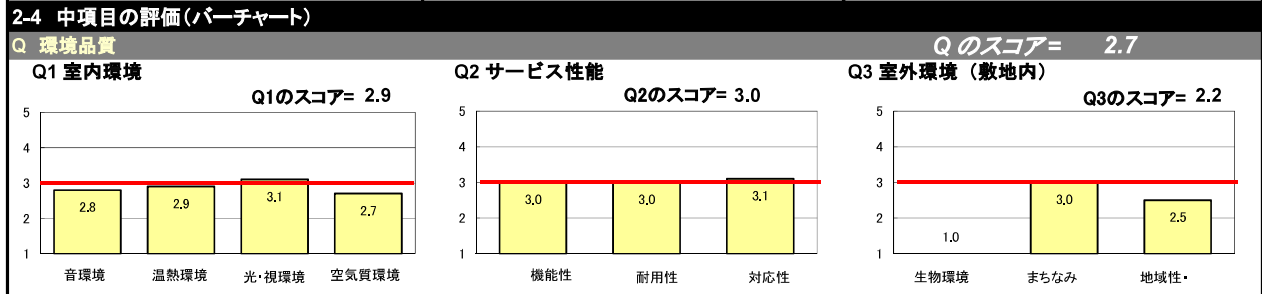
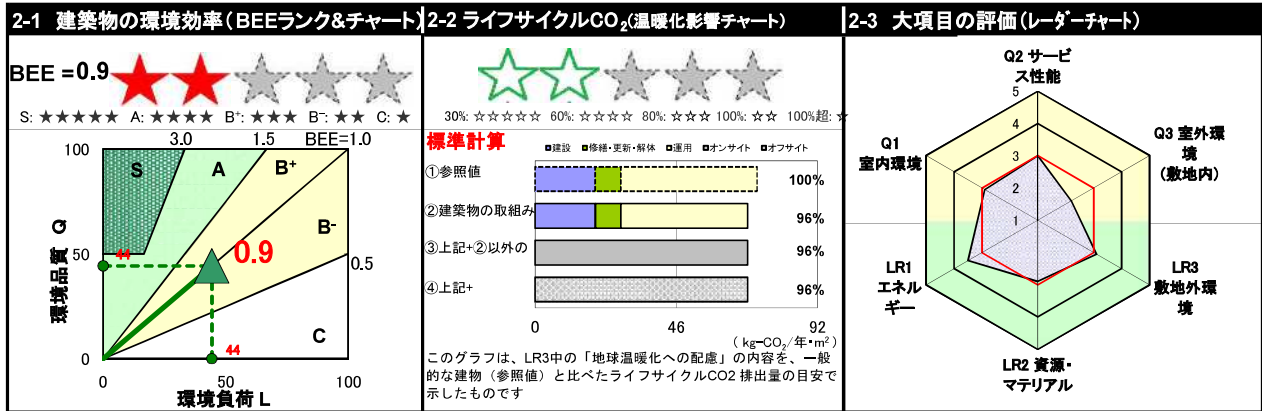
2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.1	/5				ふつつ
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.8	/5				がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.6	/5				がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5	/5				がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目					
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。							
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点				3.1	
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②屋光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ③住宅部分の屋光率0.35%を確保し、上階バルコニー(庇の代用)やカーテンを用いることにより、室内において屋光を制御しやすとした。 ④タイル貼の耐用年数は40年</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥敷地の62.6%を空き地とし、風の通り道を確保した。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨住戸全般でLEDを使用する等の計画をし、BEF=0.901になるように一次エネルギーの消費を抑えた。 ⑩各階EPSに、各住戸の電力計がある。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑬断熱材は、ODP=0の材料を使用し、オゾン層を破壊しないようにした。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2排出率を、一般的な建物の96%となるよう設計した。 ⑮隣等間隔指数0.82を確保し、夏季に敷地内を通る風が回復しやすいようにした。</p>	Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能	
	Q-1	3	3.1	3.1.3	②	屋光利用設備	
	Q-2	2	2.2	2.2.1	③	屋光制御	
	Q-2	2	2.2	2.2.2	④	躯体材料の耐用年数	
			2.2.3	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔		
			2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
			2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔		
			2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔		
			2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔		
	Q-3	1		⑤	生物環境の保全と創出		
		3	3.2	⑥	敷地内温熱環境の向上		
	LR-1	1		⑦	建物外皮の熱負荷抑制		
		2		⑧	自然エネルギー利用		
		3		⑨	設備システムの高効率化		
		4	4.1	⑩	モニタリング		
			4.2	⑩	運用管理体制		
	LR-2	1	1.1	⑪	節水		
			1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無	
				1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無	
		2	2.1	⑫	材料使用量の削減		
			2.2	⑫	既存建築躯体等の継続使用		
			2.3	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用		
			2.4	⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		
			2.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材		
			2.6	⑫	部材の再利用可能性向上への取組み		
		3	3.1	⑬	有害物質を含まない材料の使用		
			3.2	3.2.1	⑬	消火剤	
			3.2.2	⑬	断熱材		
			3.2.3	⑬	冷媒		
	LR-3	1		⑭	地球温暖化への配慮		
		2	2.2	⑮	温熱環境悪化の改善		
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点				2.8	
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰電気設備・通信設備ともに、浸水する危険性がない。</p>	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性	
				2.1.2	⑯	免震・制振性能	
			2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備	
			2.4.2	⑰	給排水・衛生設備		
			2.4.3	⑰	電気設備		
			2.4.4	⑰	機械・配管支持方法		
			2.4.5	⑰	通信・情報設備		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点				2.6	
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳各階の階高は2.96mとし、階高に余裕をもたせた。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑防犯カメラを設置し、防犯性に配慮した。</p>	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画	
		3	3.1	3.1.1	⑳	階高のゆとり	
				3.1.2	⑳	空間の形状・自由さ	
	Q-3	3	3.1	㉑	地域性への配慮、快適性の向上		
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点				2.5	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑵生物環境の保全と創出/⑶まちなみ・景観への配慮/⑷敷地内温熱環境の向上) ⑷敷地の62.6%を空き地とし、風の通り道を確保した。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑸持続可能な森林から産出された木材/⑹温熱環境悪化の改善) ⑹隣等間隔指数0.82を確保し、夏季に敷地内を通る風が回復しやすいようにした。</p>	Q-3	1		⑵	生物環境の保全と創出		
		2		⑶	まちなみ景観への配慮		
		3	3.2	⑷	敷地内温熱環境の向上		
	LR-2	2	2.5	⑸	持続可能な森林から産出された木材		
	LR-3	2	2.2	⑹	温熱環境悪化の改善		

CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)中原マンション I 新築工事	階数	地上5F
建設地	静岡県駿河区中原字蛭子宮607-10	構造	RC造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	118 人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2023年12月20日
敷地面積	1,774 m ²	作成者	早野 真介
建築面積	607 m ²	確認日	
延床面積	2,383 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合 これは、CASBEE静岡(2021)による評価である。		その他 特になし
Q1 室内環境 住宅部分の屋光率0.35%を確保し、上階バルコニー(庇の代用)やカーテンを用いることにより、室内において屋光を制御しやすくした。	Q2 サービス性能 各階の階高は2.96mとし、階高に余裕をもたせた。	Q3 室外環境(敷地内) 景観条例に適合させ、周囲と調和するように配慮した。また、敷地の62.6%を空き地とし、風の通り道を確保した。
LR1 エネルギー 住戸全般でLEDを使用する等の計画をし、BEI=0.90になるように一次エネルギーの消費を抑えた。	LR2 資源・マテリアル 節水型便器を使用し、従来の41%分の節水をした。また、断熱材はODP=0の建材を使用し、オゾン層に影響を及ぼさないようにした。	LR3 敷地外環境 隣等間隔指数0.82を確保し、夏季に敷地内を通る風が回復しやすいようにした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される